

2023年調査

# 食品工場の人手不足に関する意識調査



富士電機株式会社

2023年7月公開版

# 調査概要

調査目的	食品工場の人手不足の実態と人手不足への対応状況に関する調査																								
対象エリア	全国																								
調査対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>対象者：食品製造業従事者、かつ、事業所形態が食品工場</li></ul> <p>回答者の所属部門</p> <table border="1"><thead><tr><th>所属部門</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>製造・生産</td><td>56.3%</td></tr><tr><td>生産管理</td><td>11.6%</td></tr><tr><td>品質管理</td><td>10.6%</td></tr><tr><td>技術・研究開発</td><td>5.8%</td></tr><tr><td>その他</td><td>11.6%</td></tr><tr><td>保全・点検</td><td>4.2%</td></tr></tbody></table> <p>勤務先の従業員規模</p> <table border="1"><thead><tr><th>従業員規模</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>1000人以上</td><td>21.2%</td></tr><tr><td>100人未満</td><td>28.3%</td></tr><tr><td>100人～299人</td><td>28.6%</td></tr><tr><td>300人～999人</td><td>21.9%</td></tr></tbody></table>	所属部門	割合	製造・生産	56.3%	生産管理	11.6%	品質管理	10.6%	技術・研究開発	5.8%	その他	11.6%	保全・点検	4.2%	従業員規模	割合	1000人以上	21.2%	100人未満	28.3%	100人～299人	28.6%	300人～999人	21.9%
所属部門	割合																								
製造・生産	56.3%																								
生産管理	11.6%																								
品質管理	10.6%																								
技術・研究開発	5.8%																								
その他	11.6%																								
保全・点検	4.2%																								
従業員規模	割合																								
1000人以上	21.2%																								
100人未満	28.3%																								
100人～299人	28.6%																								
300人～999人	21.9%																								
有効回答数	311人																								
調査方法	インターネット調査																								
調査期間	2023/5/30～5/31																								

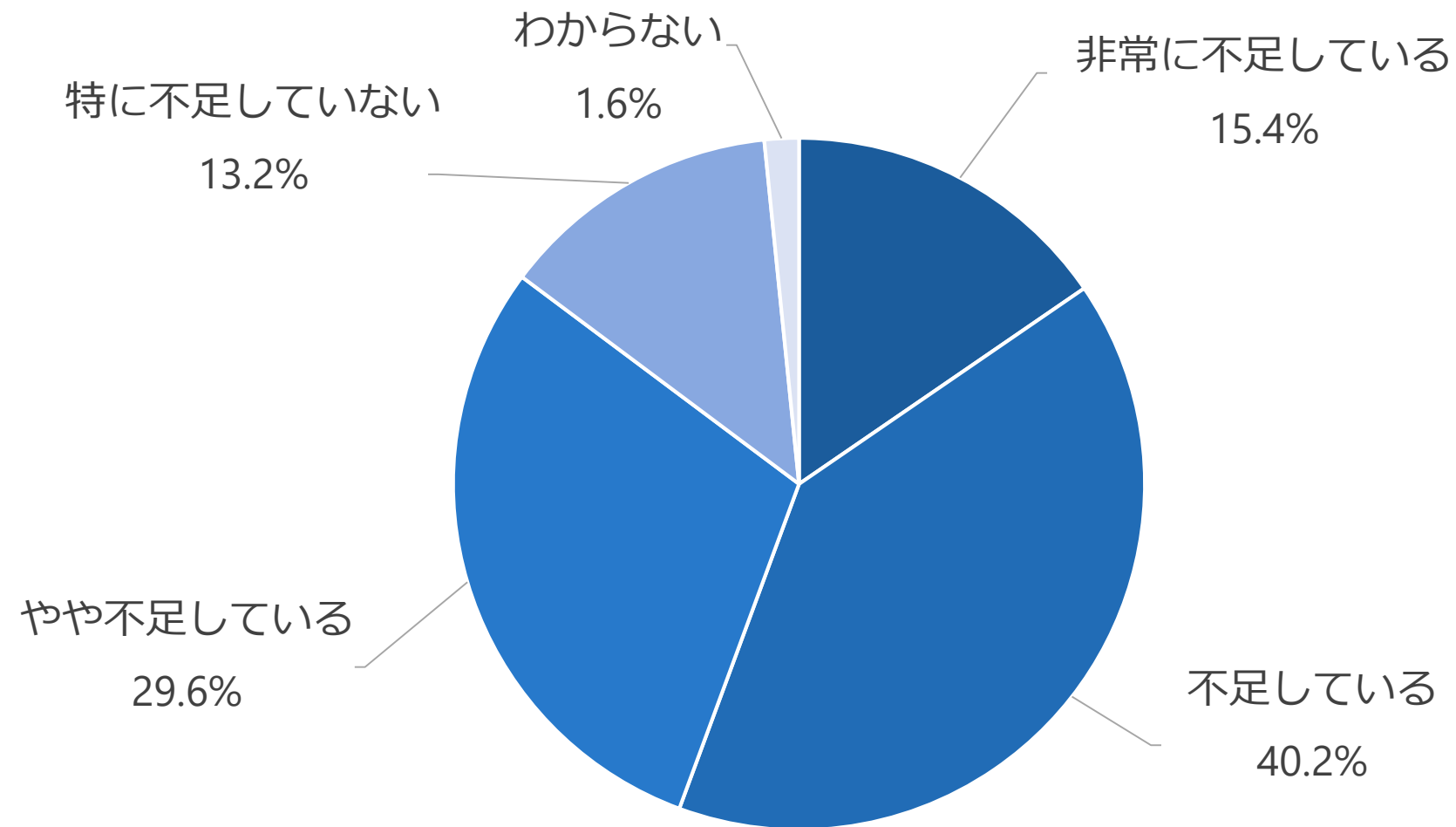
## ■ 調査項目

- 食品工場の人手不足状況
- 食品工場で人手が不足している理由
- 食品工場の人手不足が業務及ぼす影響の有無
- 食品工場の人手不足が業務に与えている影響（懸念される影響）
- 食品工場の人手不足への対応方法・取り組み状況について
  - ・ 多様な人材の活用
  - ・ 教育訓練・能力開発の強化
  - ・ 業務フロー・業務プロセスの改善・見直し
  - ・ 業務の外部委託（アウトソーシング）
  - ・ ロボット・自動機等の活用による自動化・省力化
  - ・ 多様な働き方実現
  - ・ 従業員間における業務の平準化
  - ・ IoT/IT活用による省力・効率化
  - ・ 既存設備の更新による省力・効率化
  - ・ AIによる自動化・省力化
- 食品工場の人手の過不足に関する問題・課題について（F A）

## ■食品工場の人手不足の状況

- 食品工場の人手不足の状況について、「非常に不足している」と回答したのは全体の15.4%、「不足している」が40.2%となった（図1）。
- 従業員規模別では従業員数が多くなるほど食品工場の人手不足の状況が進んでいる傾向がみられた。

図1 人手不足の状況

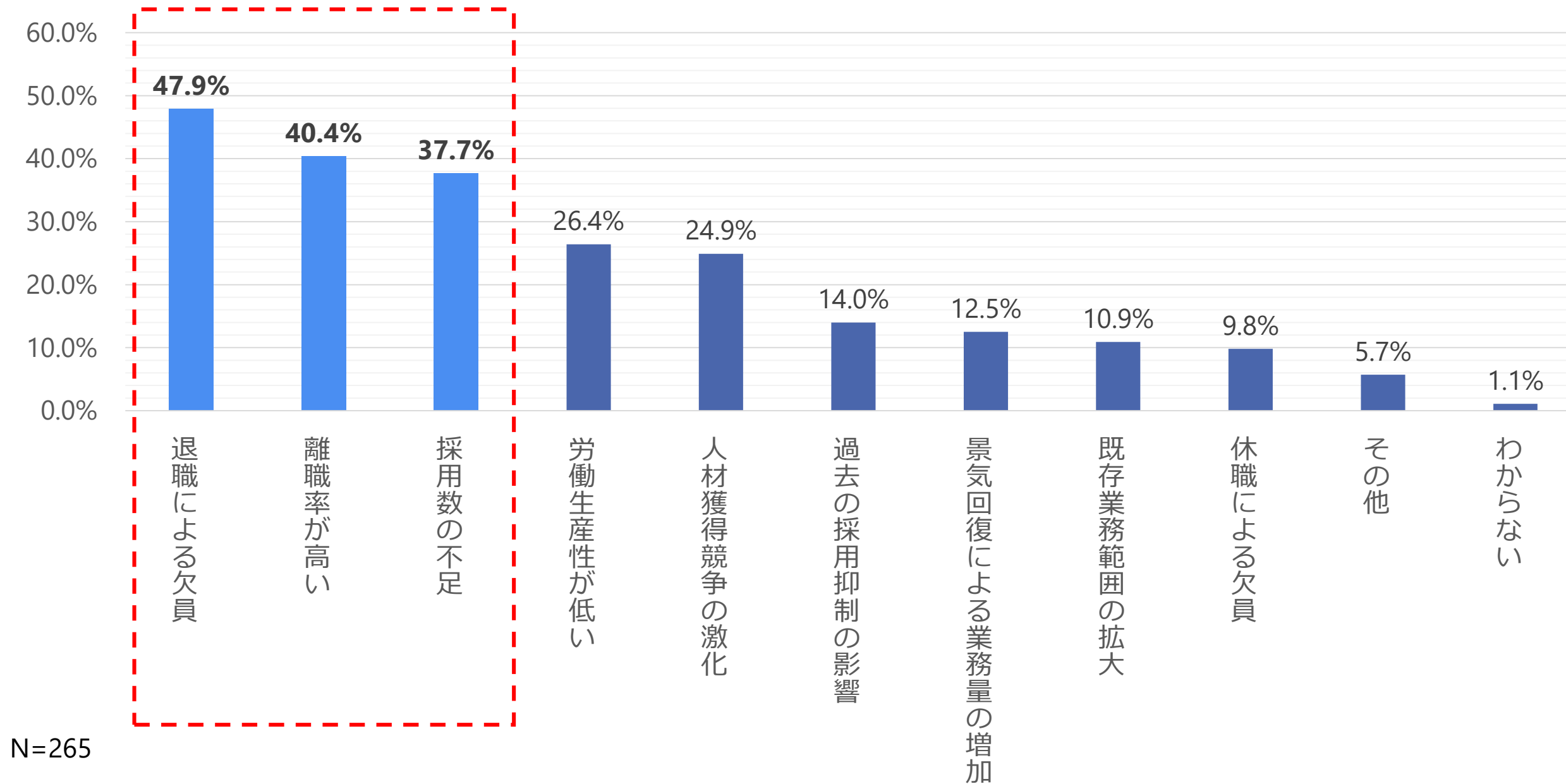


N=311

## ■食品工場で人手が不足している理由

- 人手が不足している理由について、回答が多かったのは「退職による欠員」で47.9%、次いで「離職率が高い」で40.4%、「採用数の不足」で37.7%の順に続く結果となった（図2）。

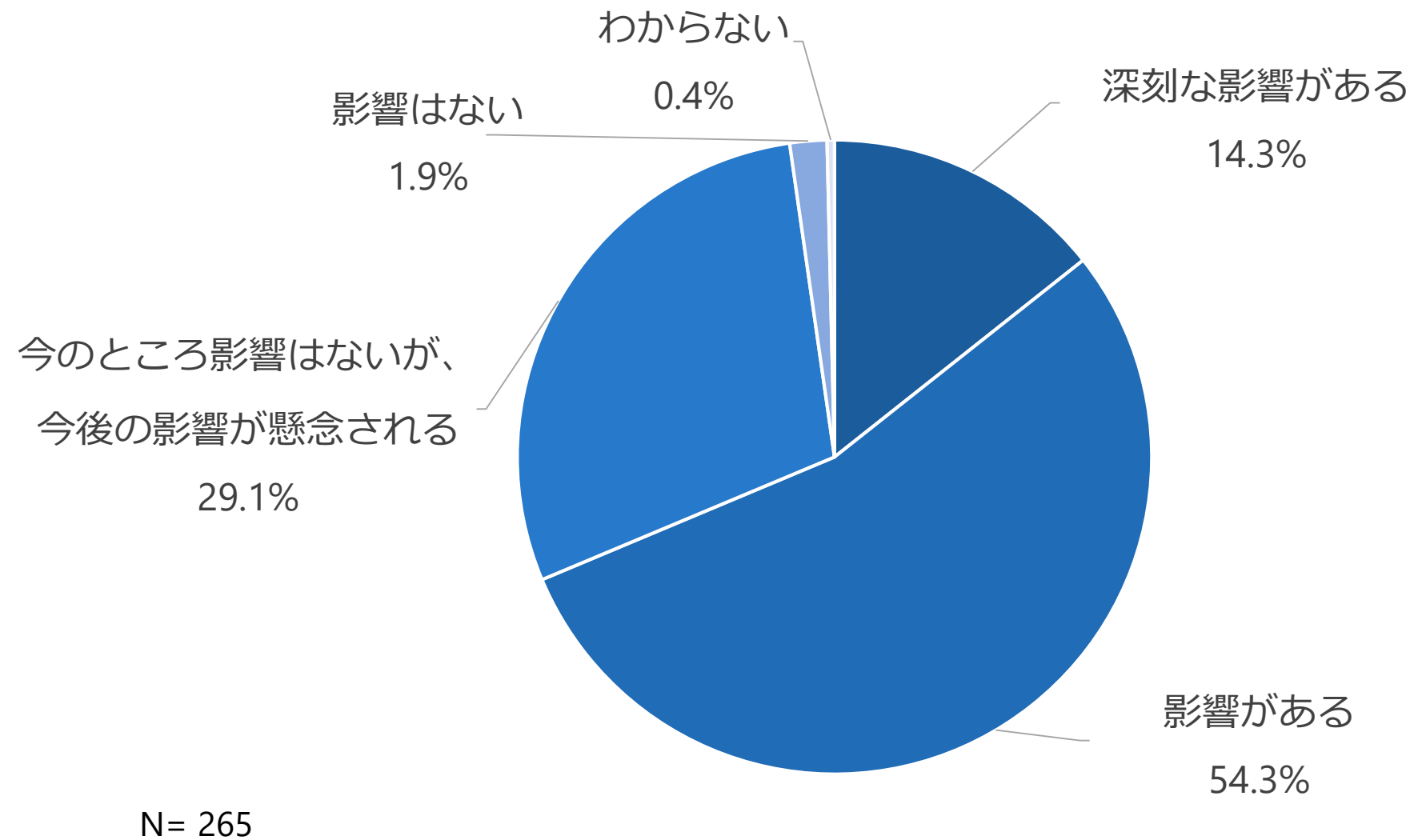
図2 人手が不足している理由（複数回答）



## ■ 食品工場の人手不足が業務及ぼす影響

- 人手不足が業務及ぼす影響について、「深刻な影響がある」と回答したのは全体の14.3%、「影響がある」が54.3%となった（図3）。
- 従業員規模別では、特に大きな差はみられなかった。

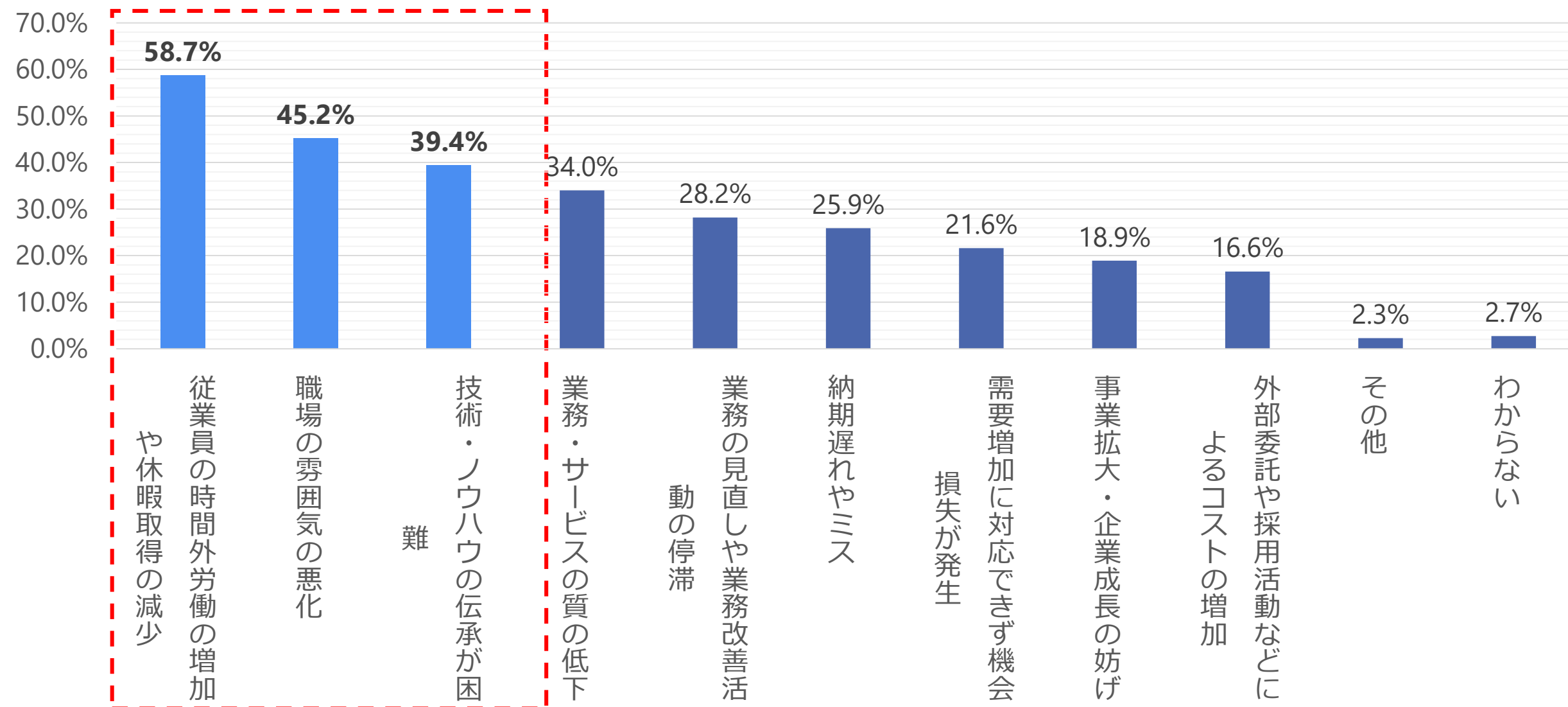
図3 人手不足が業務及ぼす影響の有無



## ■食品工場の人手不足が業務に与えている影響（懸念される影響）

- 人手不足が業務に与えている影響について、回答が多かったのは「従業員の時間外労働の増加や休暇取得の減少」で58.7%、次いで「職場の雰囲気悪化」で45.2%、「技術・ノウハウの伝承が困難」で39.4%の順に続く結果となった（図4）。

図4 人手不足が業務に与えている影響・懸念される影響（複数回答）



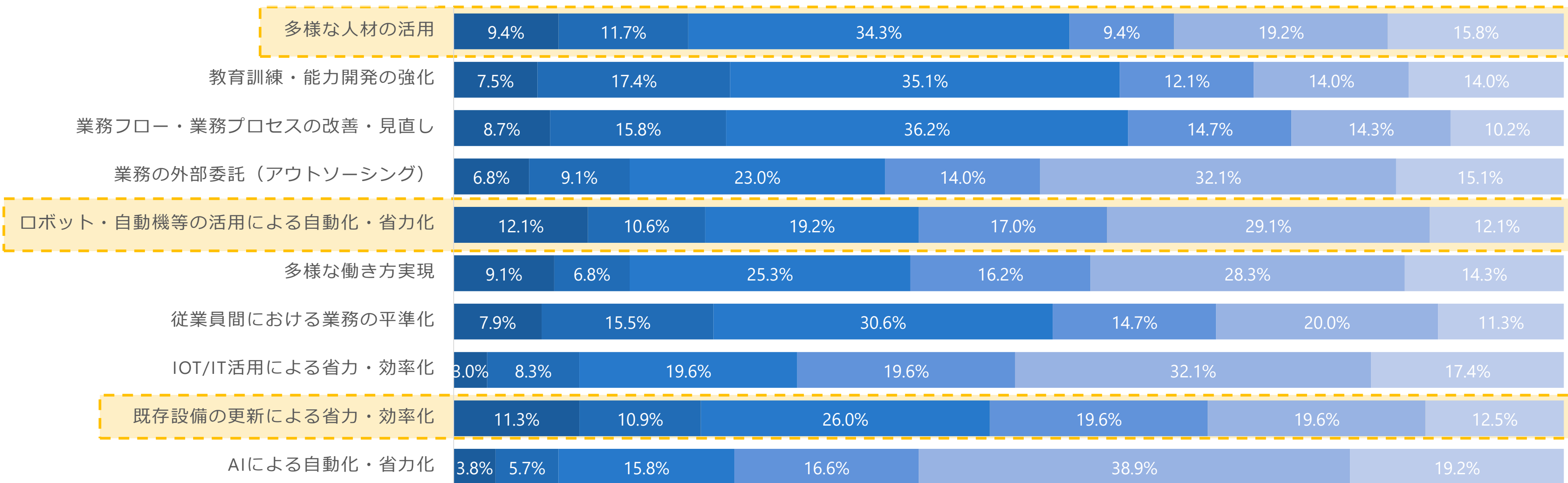
N=259

# 調査結果

## ■ 食品工場の人手不足への対応・取り組み状況

- 食品工場の人手不足への対応方法・取り組み状況について、もっとも「取り組んで効果があった」の回答が多かったのは「ロボット・自動機等の活用による自動化・省力化」で12.1%、次いで「既存設備の更新による省力・効率化」が11.3%、「多様な人材の活用」が9.4%の順に続く結果となった(図5)。

図5 人手不足への対応方法・取り組み状況



N=265

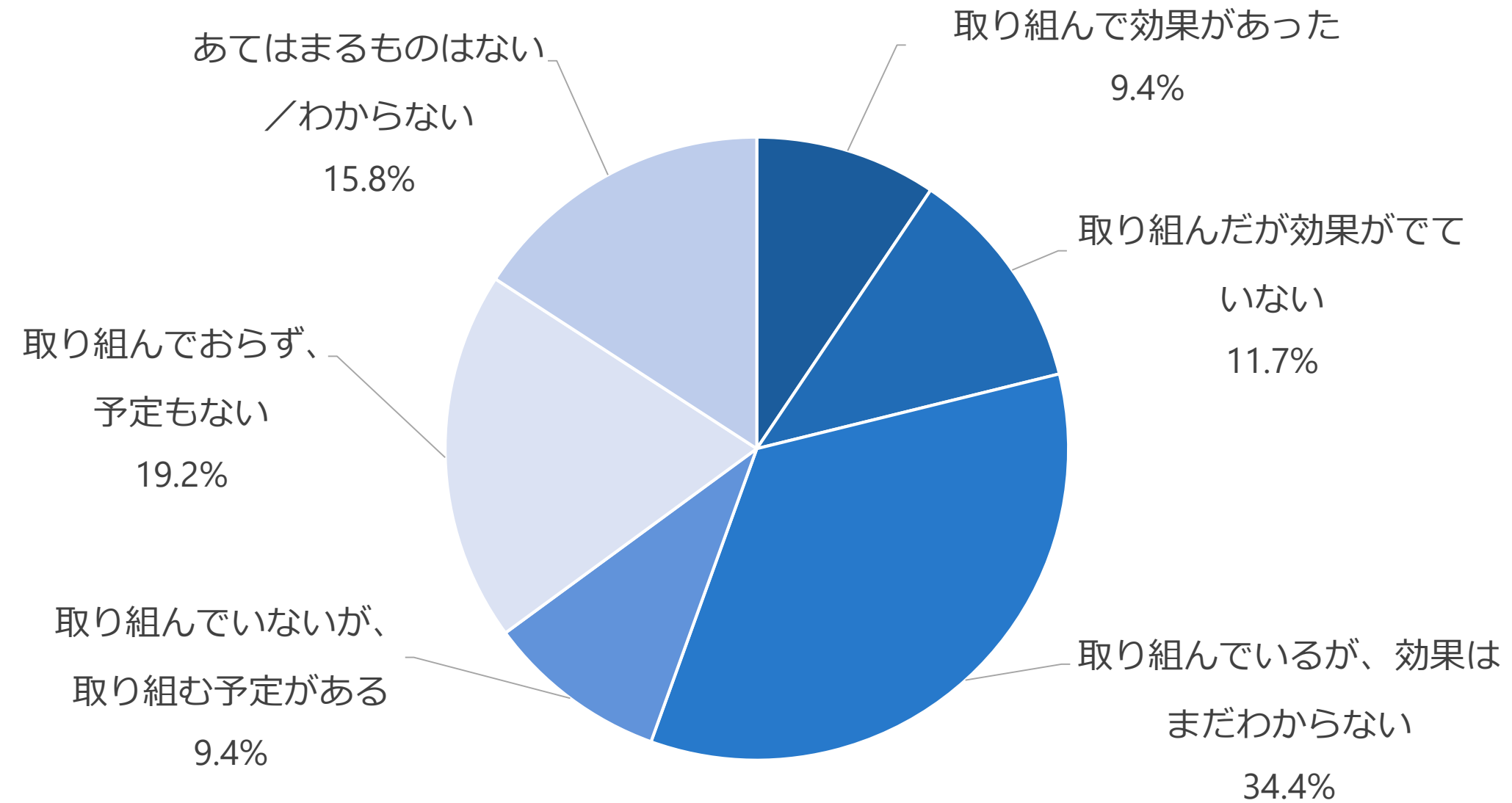
- 取り組んで効果があった
- 取り組んでいるが、効果はまだわからない
- 取り組んでおらず、予定もない
- 取り組んだが効果がでていない
- 取り組んでいないが、取り組む予定がある
- あてはまるものはない/わからない



## ■多様な人材の活用

- 多様な人材の活用について、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の9.4%、「取り組んだが効果がでていない」が11.7%となった（図6）。
- 従業員規模別では従業員数が多くなるほど多様な人材の活用が進んでいる傾向がみられた。

図6 多様な人材の活用

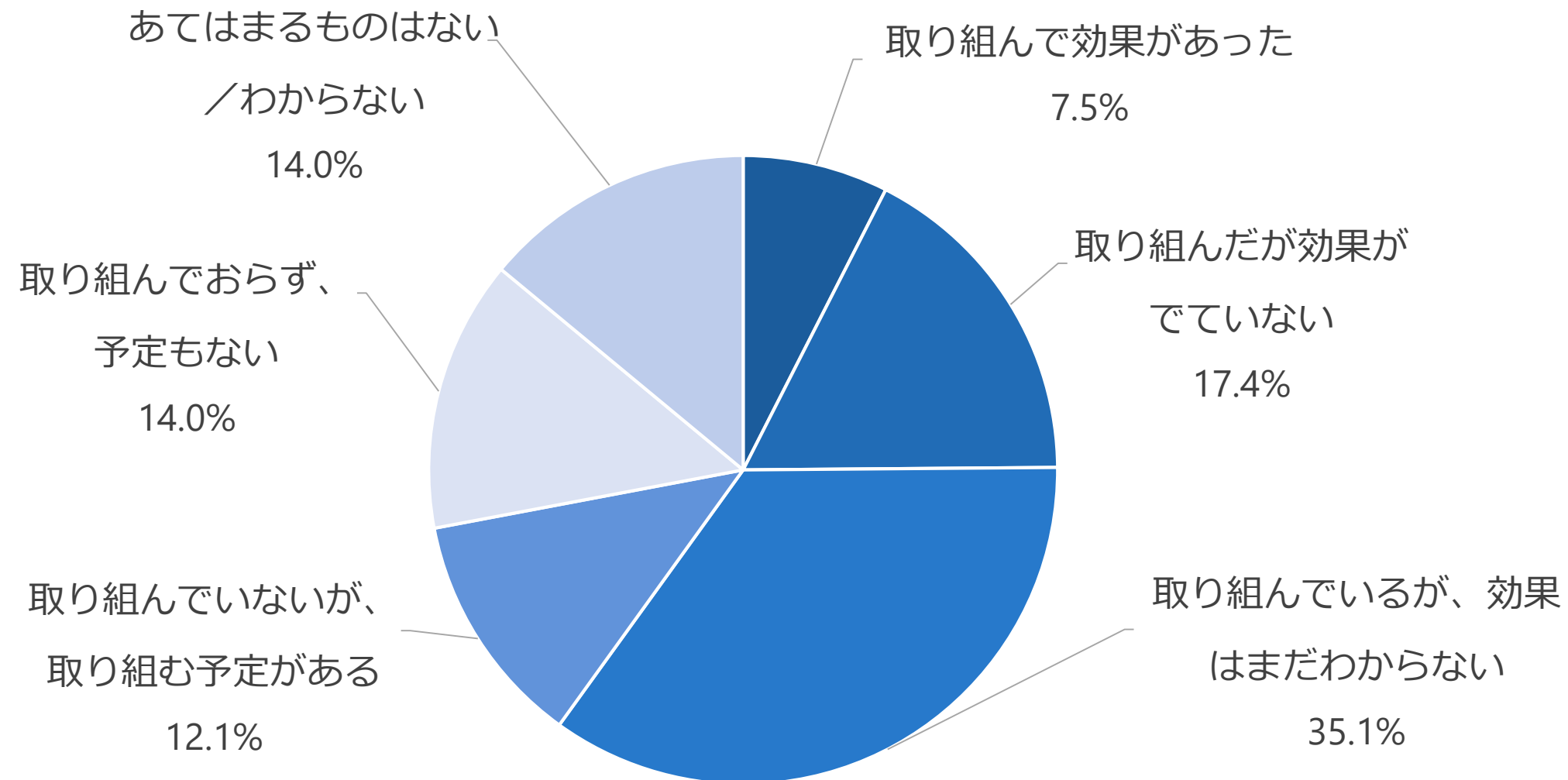


N=265

## ■教育訓練・能力開発の強化

- 教育訓練・能力開発の強化について、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の7.5%、「取り組んだが効果がでていない」が17.4%となった（図7）。
- 従業員規模別では従業員数が多くなるほど教育訓練・能力開発の強化が進んでいる傾向がみられた。

図7 教育訓練・能力開発の強化

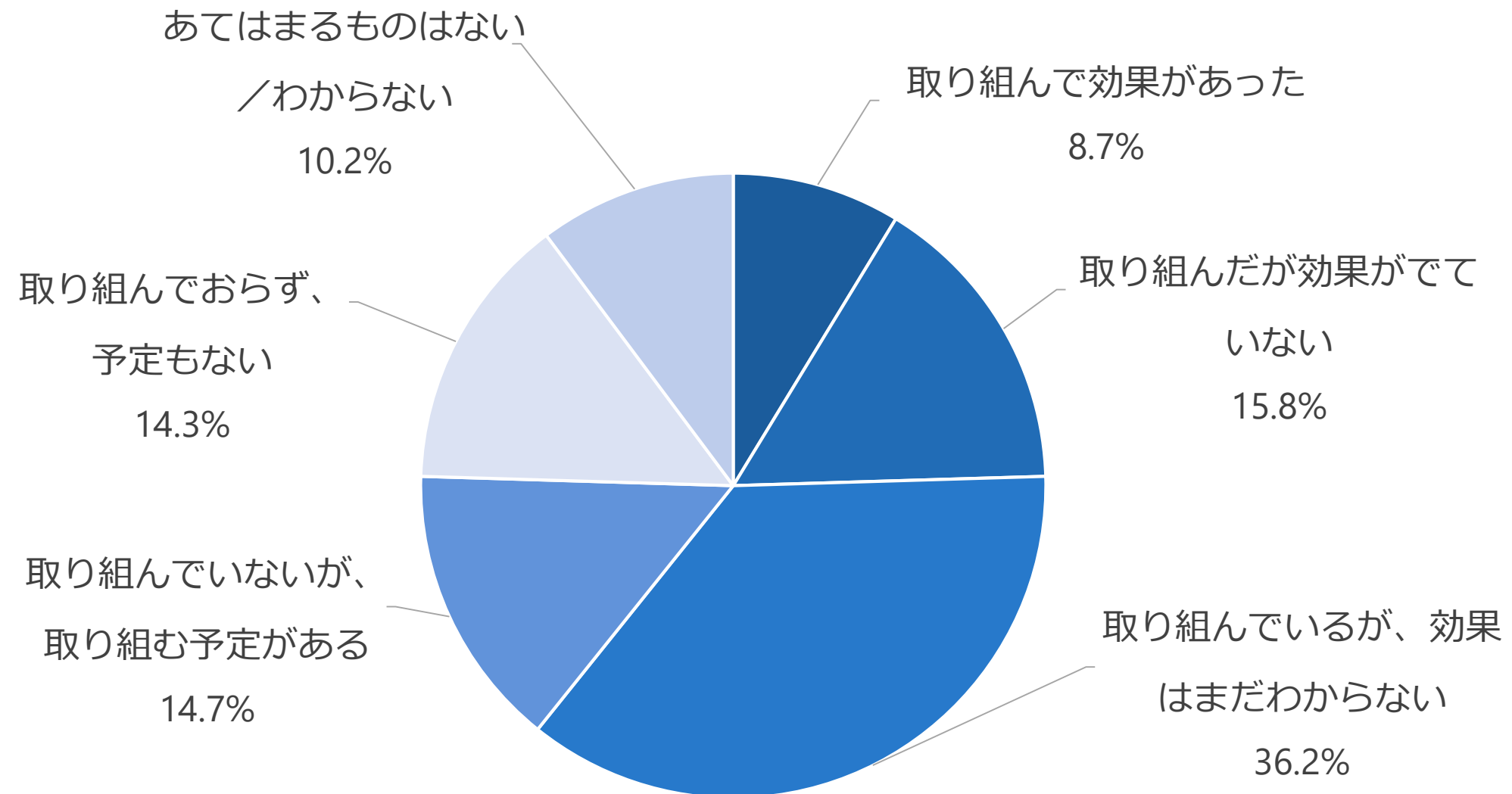


N=265

## ■業務フロー・業務プロセスの改善・見直し

- 業務フロー・業務プロセスの改善・見直しについて、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の8.7%、「取り組んだが効果がでない」が15.8%となった（図8）。
- 従業員規模別では従業員数が多くなるほど業務フロー・業務プロセスの改善・見直しが進んでいる傾向がみられた。

図8 業務フロー・業務プロセスの改善・見直し

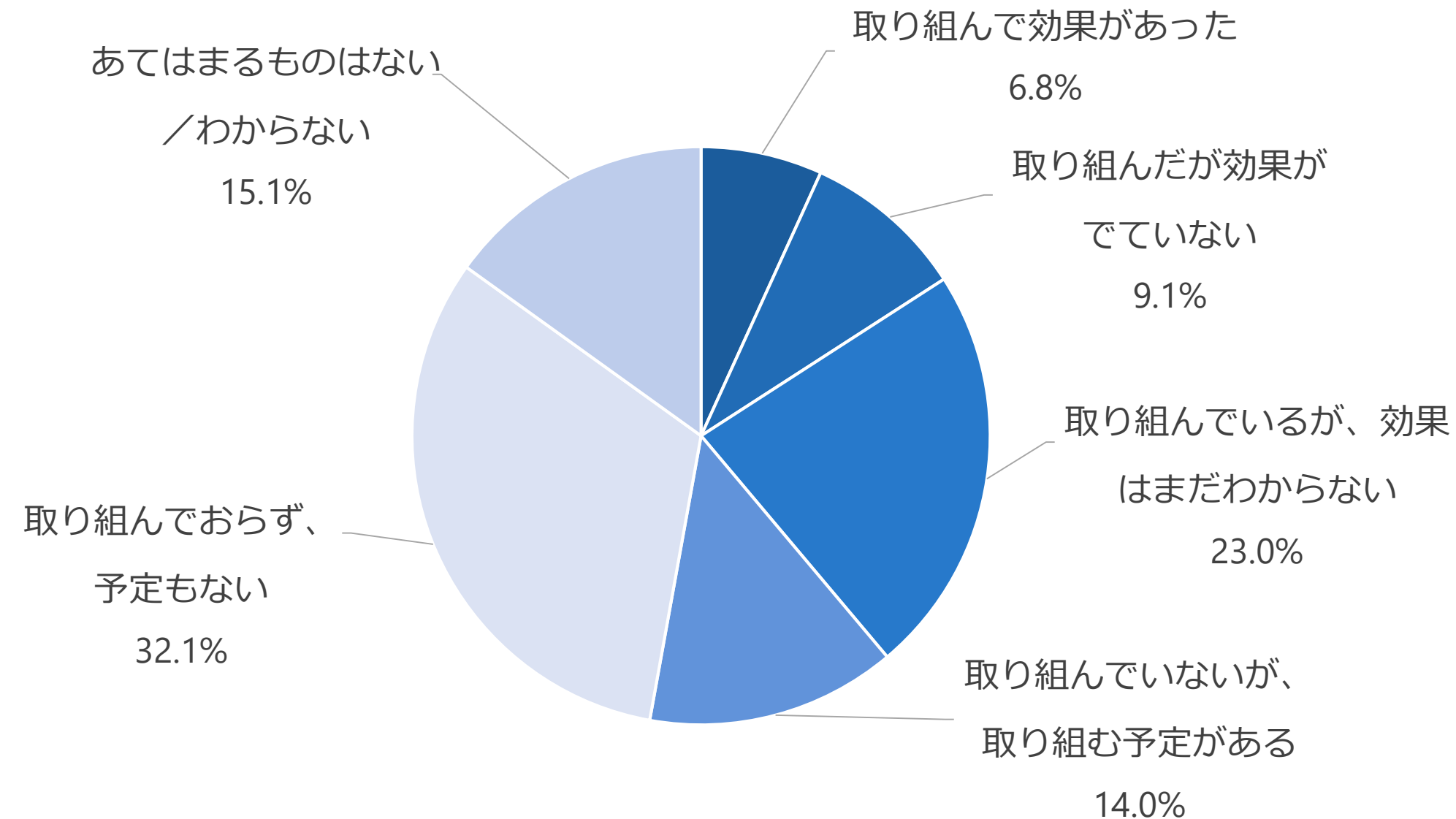


N=265

## ■業務の外部委託（アウトソーシング）

- 業務の外部委託（アウトソーシング）について、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の6.8%、「取り組んだが効果がでない」が9.1%となった（図9）。
- 従業員規模別では100人未満で「取り組んで効果があった」が全体と比べやや高くなっている。

図9 業務の外部委託（アウトソーシング）

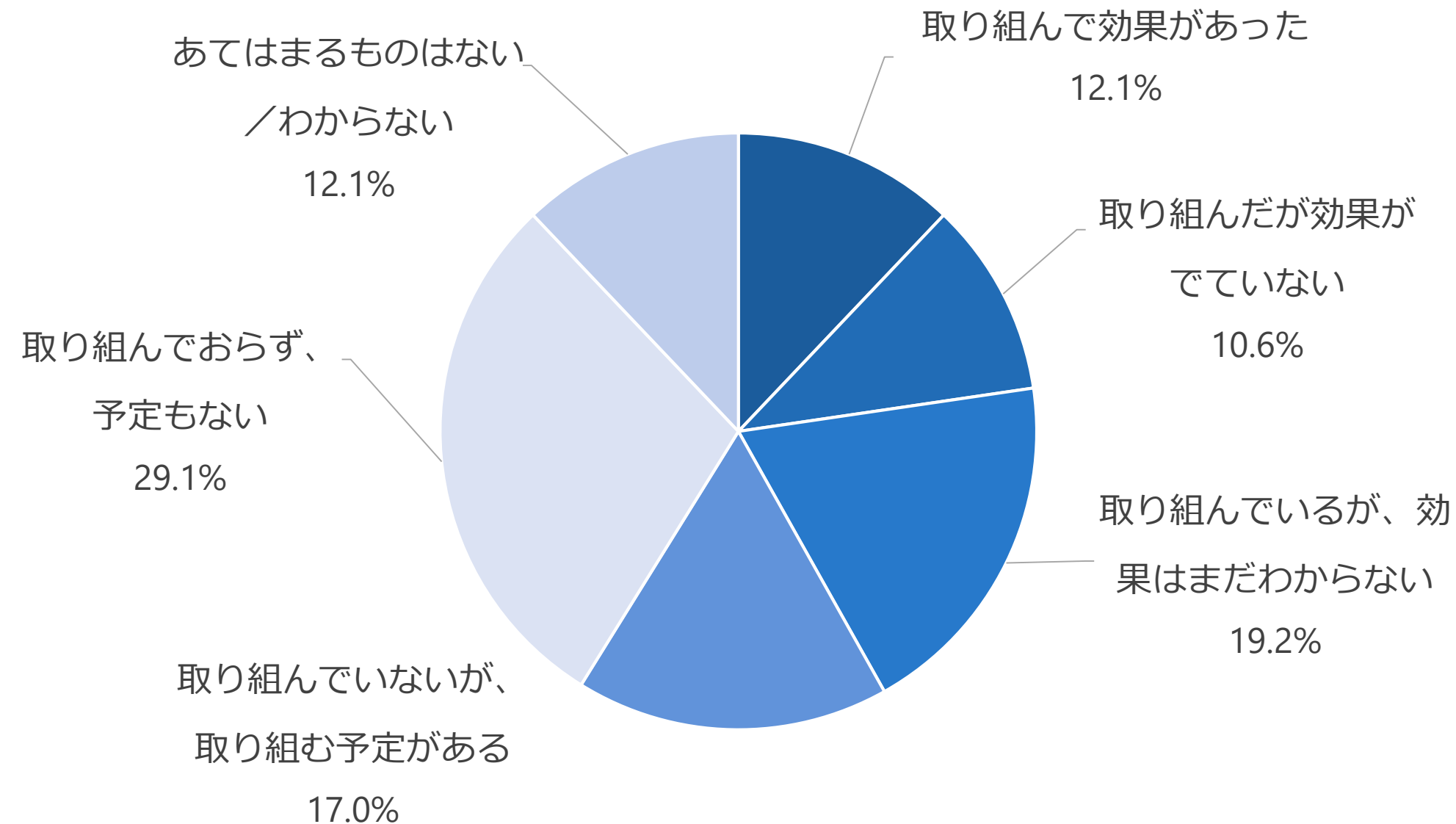


N=265

## ■ ロボット・自動機等の活用による自動化・省力化

- ロボット・自動機等の活用による自動化・省力化について、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の12.1%、「取り組んだが効果がでていない」が10.6%となった（図10）。
- 従業員規模別では300人～999人で「取り組んで効果があった」が全体と比べやや高くなっている。

図10 ロボット・自動機等の活用による自動化・省力化

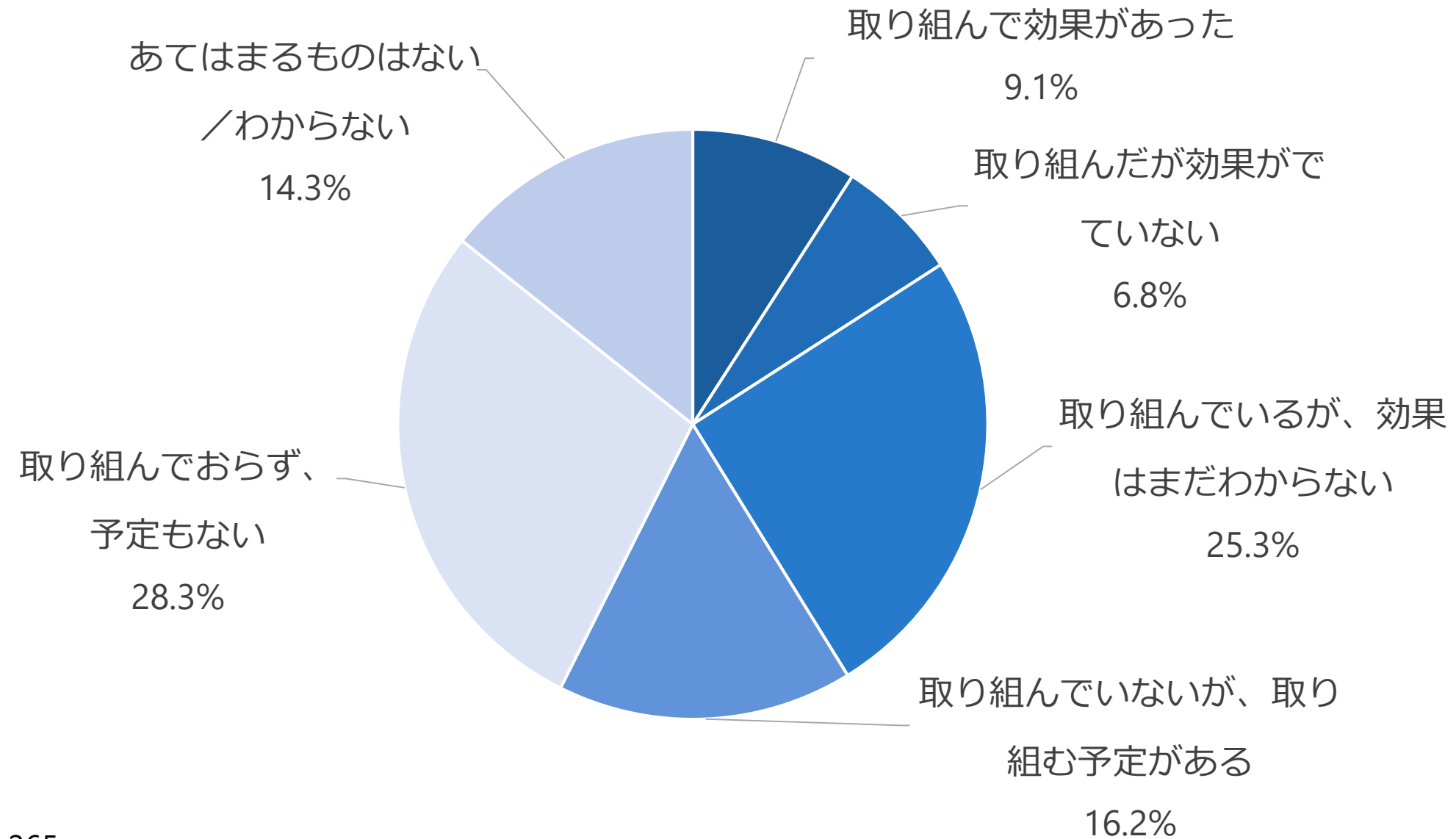


N=265

## ■多様な働き方実現

- 多様な働き方実現について、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の9.1%、「取り組んだが効果がでていない」が6.8%となった（図11）。
- 従業員規模別では従業員数が多くなるほど多様な働き方実現が進んでいる傾向がみられた。

図11 多様な働き方実現

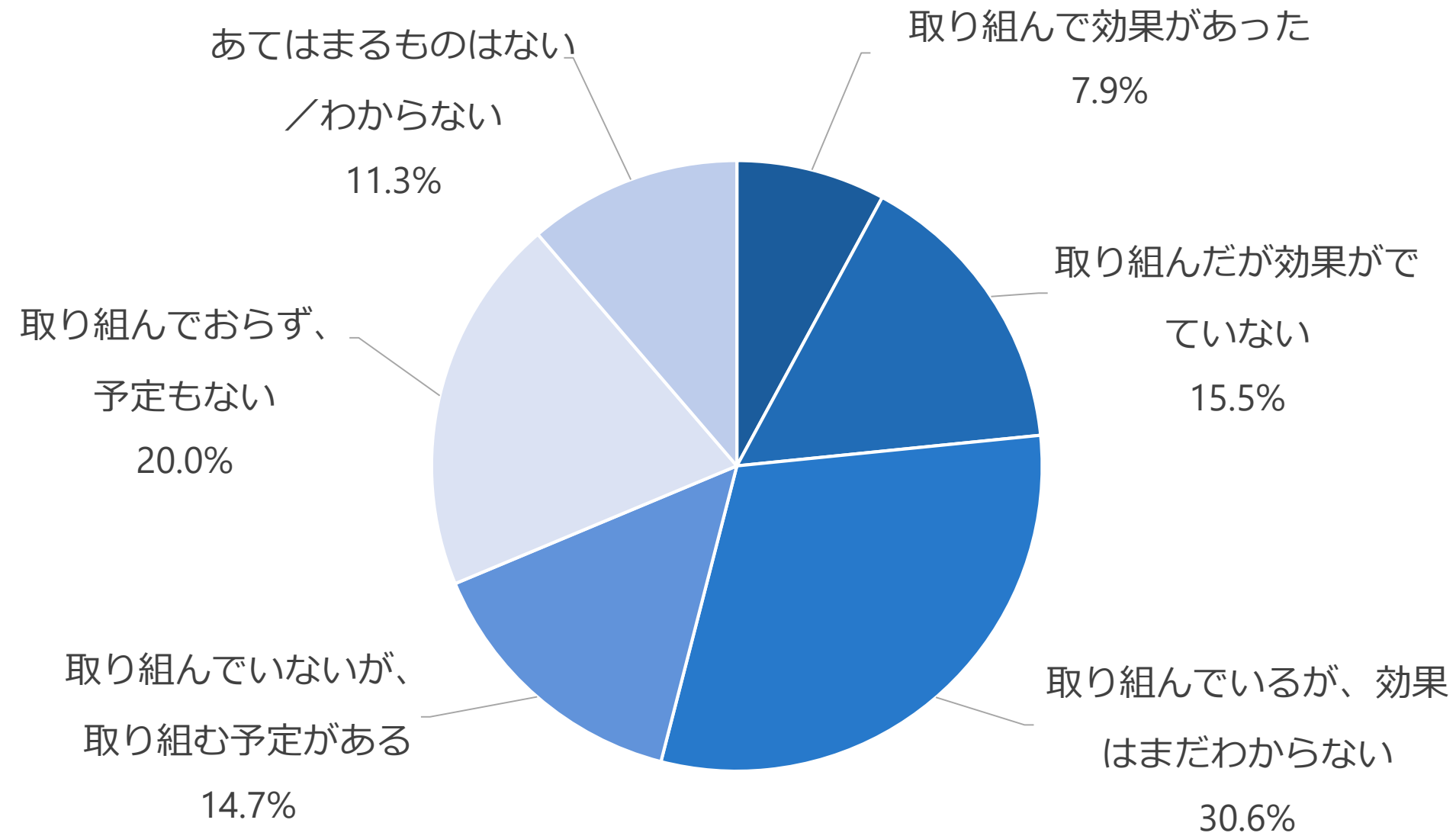


N=265

## ■ 従業員間における業務の平準化

- 従業員間における業務の平準化について、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の7.9%、「取り組んだが効果がでていない」が15.5%となった（図12）。

図12 従業員間における業務の平準化

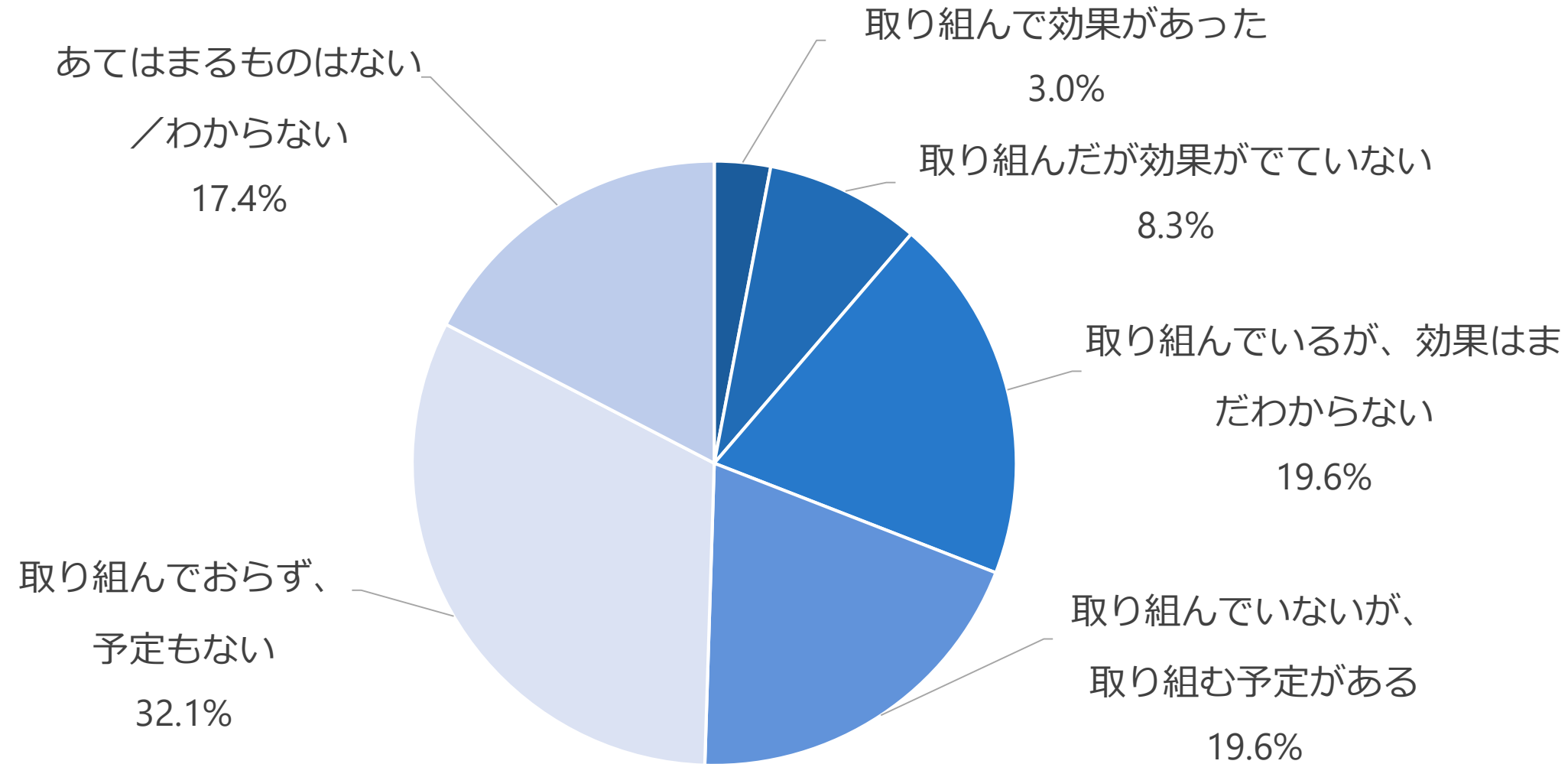


N=265

## ■ IoT/IT活用による省力・効率化

- IoT/IT活用による省力・効率化について、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の3.0%、「取り組んだが効果がでない」が8.3%となった（図13）。
- 従業員規模別では従業員数が多くなるほど IoT/IT活用による省力・効率化が進んでいる傾向がみられた。

図13 IoT/IT活用による省力・効率化



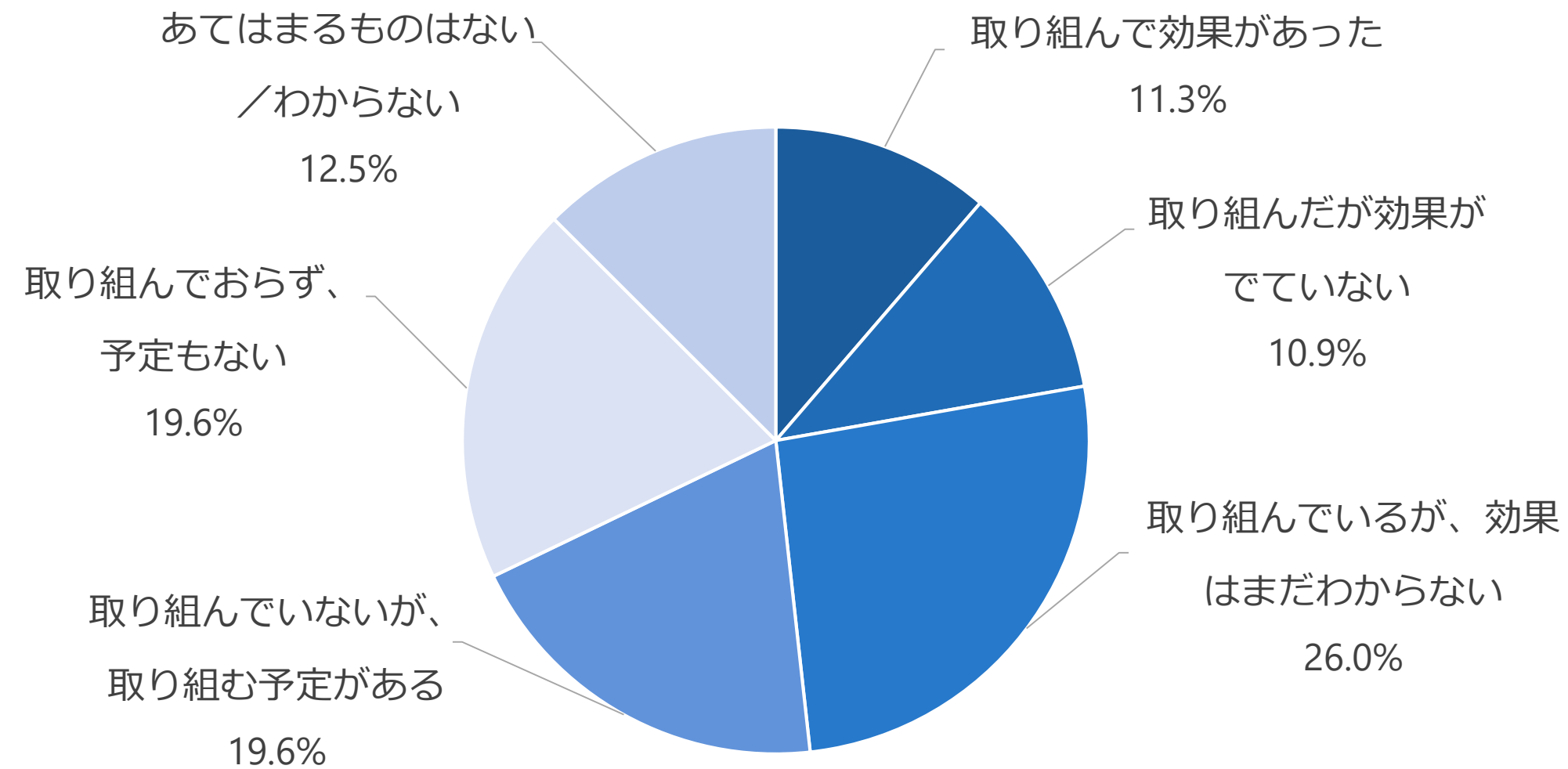
N=265



## ■ 既存設備の更新による省力・効率化

- 既存設備の更新による省力・効率化について、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の11.3%、「取り組んだが効果がでない」が10.9%となった（図14）。
- 従業員規模別では1000人以上では「取り組んで効果があった」の回答は20.3%という結果になった。一方、従業員規模100人未満では2.9%となり、取り組み状況に17.4%の差が開いた。

図14 既存設備の更新による省力・効率化

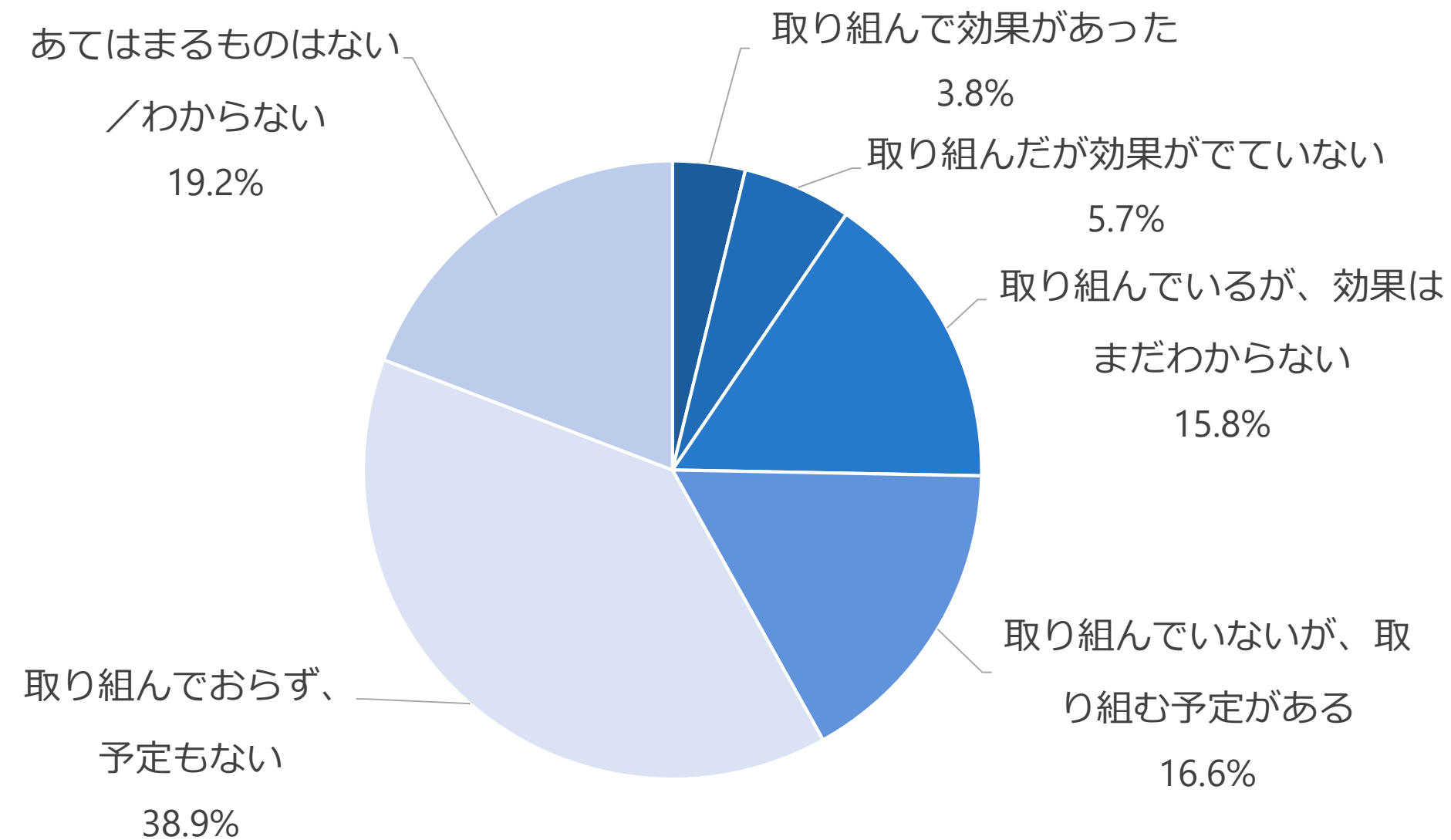


N=265

## ■ AIによる自動化・省力化

- AIによる自動化・省力化について、「取り組んで効果があった」と回答したのは全体の3.8%、「取り組んだが効果がでていない」が5.7%となった（図15）。
- 従業員規模別では300人～999人で「取り組んで効果があった」が全体と比べやや高くなっている。

図15 AIによる自動化・省力化



N=265

## ■ 食品工場の人手の過不足に関する問題・課題について（F A）

人手の過不足に関する問題・課題についてのF A（フリーアンサー）では、「求人・採用が難しい」「従業員の高齢化」「繁忙期への対応」「離職率」に関連する問題・課題が多くみられた（以下F A回答の抜粋）。

- 募集しても集まらない。
- 閑散期に人手は足りていても繁忙期になるとやや人手不足を感じることもある。
- 働いている従業員のスキルも低く従業員数も減っているため一人ひとりの業務が増加。
- ベテラン社員の退職が多く、若手教育の時間も確保できない。
- 技術後継者がいない為、今後の機械メンテナンスが出来なくなる。
- 機械化、ペーパーレス化の遅れによる業務膨大。
- 人手不足ではないが、労働条件がいいわけではないので、いい人材が集まりづらい。
- 求人を出してもなかなか人が集まらない。工場の立地にも問題がある車がないと通勤が困難である
- 職場の環境が改善出来ていないので、人材の確保に乏しい。立地などの問題もあり、中々人が集まらない。
- 製品のライフサイクルが短く、設備投資による省人が難しい。業種人気が無く、選択肢の最後で人が集まらない。
- 業務内容によって特定の人材でないとできない業務が多い事。
- 機械化が進まない。人のかかる作業が今だに多い。
- 省人化が進まない。いつまでも機械化、自動化できない作業が多く、人で溢れている。
- 労働力が揃っても（外国人労働者の雇用等）、その人たちを指導する側の人材が極端に不足しており、指導できる人への過重労働が深刻
- ギリギリの人数で各部門やっているので一人休んでしまうと、他の人にしわ寄せがきてしまう。
- 年齢構成が高齢化しており、早急に改善する必要がある。

食品工場の生産性向上・技術継承をご検討中のお客様へ

## 食品工場・生産ライン・設備機器にこんな課題はありませんか？



労働者人口減  
・人手不足



IoT化の推進  
データ活用



突発的な設備故障  
生産ロスの低減



自動化・省力化



ペーパーレス化  
の推進

・食品工場のIoT化を進めたいが、どこからはじめていいかわからない。

・データの分析・解析が属人化しており、必要な人材も不足している。

・技能伝承が今後の課題だが、どのようなやり方があるかわからない。

・海外工場への出張に時間がとられ、本来すべきことに時間がさけない。

・工場全体の省エネを進めたいが、どこからはじめていいかわからない。

・IoTに取り組み、挫折した経験があり、取り組みがなかなか進まない。

・メンテナンスができていない、いつ故障するか分からない設備がある。

・生産設備の故障時に、十分な原因分析・対策ができずにいる。

・出張制限・移動ができない状況下であり、視察・監査ができていない。

・技術者が不足しており、機械故障時の対応に時間がかかっている。

・人材の確保が難しい一方で、人材の育成には時間がかかっている。

・点検・チェック作業にバラつきがあり、作業品質上の課題がある。



**食品製造業界の製造活動を支える富士電機のソリューションで解決します**



## おすすめの食品製造業界向けソリューション

### 回転機故障予兆監視システム Wiserot



生産ラインや重要機器として稼働している、回転機の振動を定期的に計測することができます。

例えば回転機、ファン、ポンプ、発電設備、プレスなどの機械設備の「低周波の機械振動」「高周波のベアリング振動」及び「温度」を自動的に記録し、傾向を管理します。

これにより異常予兆を早期発見することが可能になり、適切な予防保全の立案、生産ロスコスト低減に貢献します。

### 遠隔作業支援パッケージ FWOSP-Glass



遠隔地の現場状況をリアルタイムで把握し、作業の指示や支援を行うことができるスマートグラスです。

作業員がFWOSP-Glassを装着することで、遠隔から映像を見ながら作業指示を伝えることができます。

現場では手順書を見ながらハンズフリーで作業可能で、さらに音声や動画によって作業を記録することもでき、保守・保全作業の負担を軽減します。

人材育成や人手不足などの課題に応え、これまでの働き方を変えるとともに業務の効率化を実現し、作業品質の向上、コスト削減にも貢献します。

### 導入実績一覧

飼料品・農林水産業A社様 高圧受電設備  
 食品・農林水産業A社様 FAシステム  
 食品/物流・倉庫業B社様 特高変電所  
 食品/物流・倉庫業B社様 分散制御システム(DCS)  
 食品/物流・倉庫業C社様 特高変電所  
 食品/物流・倉庫業D社様 FAシステム  
 飼料製造業A社様 高圧受電設備  
 飼料製造業A社様 設備予兆診断システム  
 飼料製造業B社様 高圧受電設備  
 飼料製造業C社様 FAシステム  
 食料品製造業A社様 特高・高圧受電設備  
 食料品製造業A社様 分散制御システム(DCS)

食料品製造業A社様 生産管理システム  
 食料品製造業A社様 トレーサビリティ管理システム  
 食料品製造業A社様 設備稼働監視システム  
 食料品製造業A社様 MSPC (多変量解析システム)  
 食料品製造業B社様 生産管理システム  
 食料品製造業B社様 原料在庫管理システム  
 食料品製造業B社様 原料計量・投入管理システム  
 食料品製造業B社様 トレーサビリティ管理システム  
 食料品製造業B社様 設備稼働監視システム  
 食料品製造業B社様 エネルギー監視システム  
 食料品製造業C社様 エネルギー監視システム  
 食料品製造業D社様 高圧受電設備

食料品製造業E社様 分散制御システム(DCS)  
 食料品製造業F社様 設備予兆診断システム  
 食料品製造業G社様 設備予兆診断システム  
 食料品製造業H社様 FAシステム  
 食料品製造業I社様 設備稼働監視システム  
 食料品製造業K社様 設備稼働監視システム(MES)  
 飲料製造業A社様 生産管理システム  
 飲料製造業A社様 分散制御システム(DCS)  
 飲料製造業A社様 トレーサビリティ管理システム  
 飲料製造業A社様 設備稼働監視システム  
 飲料製造業A社様 エネルギー監視システム  
 飲料製造業B社様 特高・高圧受電設備

飲料製造業B社様 分散制御システム(DCS)  
 飲料製造業B社様 生産管理システム  
 飲料製造業B社様 設備稼働監視システム  
 飲料製造業B社様 エネルギー監視システム  
 飲料製造業C社様 異物検査装置  
 飲料製造業C社様 キャップ検査装置  
 飲料製造業D社様 ライン監視制御システム(DCS)  
 食品包材製造G社様 生産管理システム  
 食品包材製造G社様 設備保管理システム  
 食品包材製造G社様 検査画像管理システム  
 製薬業E社様 高圧受電設備  
 医薬品業F社様 BIシステム 他多数

# お問い合わせ

---

本資料に関するお問い合わせは下記URLよりお知らせください。

**食品工場ソリューション公式Webサイト：**

<https://www.fujielectric.co.jp/products/foodfactory/> 

富士電機株式会社

〒141-0032

東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー

パワエレ営業本部 プロセスオートメーション統括部 営業第4部1課